

わたしのくらし 地域の歴史⑳ 駆け抜けてきた日々と熊川

公民館白梅分館で活動されているサークル会員にして白梅利用者交流会代表の橋本三男氏が、瑞宝章を受章しました。今回は市内のかつての姿が目に見え、受章の背景を語っていただきました！



瑞宝章をいただいたということで、私自身がどうい生活をしてきたか、この勲章はどういったものなのか、話をさせていただきます。

私は昔の熊川駅の西側で生まれました。土手沿いのほうです。時期は戦後まもなく、夜中だったそうです。生まれる際にみんなで灯りをつけて何やらゴソゴソせわしなくしていたもので、不審に思った進駐軍の憲兵が入り込んできた、なんて話を母からつい最近まで聞かされてきました。

熊川で生まれた私ですが、小学校から牛浜に移ることにあります。熊川で育った中で一番の思い出は、福生院の甘茶です。お釈迦様の誕生日、花祭りの日に空瓶を持って行くと、そこに甘いお茶を淹れてもらえます。要する

に紅茶のようなものだと思うのですが、小さなころの私は、それを福生院でいただいて喜んでいました。

多摩川の河原に行くときには、五日市線の脇を通って行ったことを覚えていて、歩いていくと、田んぼに降りる斜めの道がついていました。そこを通って行って、土手に着いたら多摩川に降りていくのです。五日市線を通っている間に蒸気機関車が来たら、線路脇に一步下がって、行き過ぎるのを待ってからまた歩きます。私の子ども時代は、そういう生活をしていました。

もうひとつ記憶に残っているのが、お医者さんのことです。

福生第二小学校の近くに、今は江藤さんという歯医者さんがありますね。あの歯医者ができる前のことです。私の子どもの頃には、あそこには江藤さんという内科医さんがいました。子どもの頃に具合が悪くなるとそこに連れて行かれて、お尻に注射をされたのを覚えています。何故だか知らないけれど、お尻だったんですね。腕が細かったのかもしれない。

ただ、診療が終わると甘いシロップのお菓子をいただいて、最後には喜んで

帰っていくのが常でした。

そんな私も高校生になり、戦後のベビーブームにできた新しい学校に入りました。多摩工業高校です。実は入学した頃の私の成績はビリくらいで、入学してから頑張りました。その後、大学に行き、教員になったという次第です。

教員生活は荒川工業という遠いところから始まりました。それから小石川工業、これは定時制の学校です。それからあちこちを転々といまして、また小石川工業の、今度は風間、教頭として戻りました。そうして最後に、多摩工業高校に校長というかたちで戻ってまいりました。

校長としての役目を終えた後ですが、全国の工業高等学校長協会という、全国の私立公立工業高校の620校ほどの校長先生を集めて作った団体があります。その事務局長をやらせていただきました。

あわせて全国の産業教育中央振興会。これは文部省の肝入りなのですが、日本の産業を復興させなきゃいけないという思いで作られました。このメンバーには、すごい方がたくさんいます。色んな有名企業の会長さんがお

金をだして作られた財団です。この常務理事をさせていただきました。こういう働きがあり、今回に繋がっているのかもしれない。

そのほかにも趣味でギターや色々なことをやっていた私ですが、30歳の中盤から、コンピュータ制御という分野を勉強し、どういわけか目をつけられることになりました。専門書をいくつか書くことになりました。

こういったものは一度書くと次から次へと書いてくれと言われるもので、14、15冊出版させていただきました。趣味ではないですが、こういったこともしていました。

昭和43年はミニコンピュータの時代といつこと、私も使っていました。50年に入りNECのボードコンピュータというものが出ました。これを使い、プログラミングを行いモーターを回したり温度を調節したりしていました。例えば学校に、陶芸の電気炉がありました。これをそのプログラミングで夕方にセットしておきます。すると、明日の朝、勝手に焼きあがるのです。そのほかにもピアノの自動演奏やNゲージのコントロールなど、おもちゃを作って遊んでいたことを覚えて

います。そんな私の最大の傑作が、マイクロマウスの製作です。迷路を自律制御で走っていく小さな自動車で、当時まだ東京でも何人も作っていません。

そういった経験を集めて作ったものが『マイコン実習』という本です。この本が出たおかげで、一般書、検定教科書など「こういう本を作ってくれ」というお話をいただきました。

文部省とやりとりをして、作った白表紙の本を2、3ヶ月かけて読んでもらいます。そうすると、これはだめだあれはだめだと校正が入ってきます。こういった方法で、本を作っていきます。

先程申し上げた通り、私は全国の工業高等学校長協会というところに入っていたのですが、この協会は検定試験を行ってお金をもつけていましたので、有形資産がありました。漢字検定が一時騒がれましたが、その際に公益法人の改革が行われまして、一度法人の認定が白紙に戻ったのです。ここでもう一度公益法人の申請をしないといけなくなり、有形資産は使ってしまうということ、協会のビルを建てました。ビルを建てるのに資産は10億円ほど使い、残ったお金は協会の運営資金となりました。

その際に、理事会も評議会も定款も新しく作成しました。会計基準も「収益の半分を公益事業に使う」というきまりがありますので、見合った会計処理を行えるように変更しました。そういった会計を2年間かけて行い、再度公益法人の申請をして、ようやく通ったというお話です。

事業としてやったことですが、「高

校生ものづくりコンテスト」これは我々の自慢です。

高校生が旋盤や電気工事、自動車整備など、いろいろなことをするコンテストです。このコンテストに優勝した学生は、ほとんどがデンスローや日産といった民間企業に引き抜かれます。

なぜ引き抜かれるかというと、大学を出てからだとこの「技能五輪」というものに出られないんです。ですので、こういった技術のある高校生を企業がつかまえて、社内で二年ほど特訓するので、そうして、技能五輪に出して、良い成績をおさめれば会社の利益につながる、ということなんです。

我々はこういったものの下支えをしていました。それと海外研修ですね。これも全国から学生を集めて行いました。私も、何度か引率をしたことがあります。

それから、皆さんは「ロボット相撲」というものをご存知ですか？高等専門学校でも行っているのですが、工業高校でもこういった大会を開催しています。これは地区大会、ブロックと続き、全国大会まであります。産業教育フェアという文部省が後援になって開催するフェアがあり、この中で全国大会を実施するのです。

もうひとつ、すごいものがあります。ジュニアマイスター顕彰制度というものです。学生が色んな国家資格や検定を取得した際に、区分表ごとの点数を与えます。なかなか我々でもとれない

ような資格をとる子の中にはいます。こういった学生の特定をして、優秀な子を推薦して経済産業大臣賞をもらいます。こういった手助けを行っていました。

私がいただいた勲章の話ですが、3種の基準があるようです。まずは「社会や多くの人のために重要な仕事をした人」それから「目立たなくて重要な仕事をコツコツした人」。これは町の職人さんとか、伝統的なものを作っている人たちですね。最後に「誰かの命を救うために力を尽くした人」です。これは警察や消防署の人が貰うことが多いそうです。

私はひとつ目の「重要な仕事」にあたるんだそうです。いただいた瑞宝章は公務に長年従事し、功績をあげた人が貰えることになっています。校長先生をしていても、貰えない人はたくさんいます。

私は関係団体から直接文部省、経産省とのやりとりをしたということで、文部省から推薦していただいた形です。授与当日、我々は皇居の豊明殿というところで、天皇に拝謁しました。これで、私の話はおしまいです。本日はありがとうございました。

橋本 三男氏

令和2年1月より白梅利用者交流会代表。太極拳サークル「金木犀」、ウクレレサークル「マノアクラブ」、陶芸サークル「桜陶会」など、様々なサークルで活躍されています。



受章された瑞宝章

ただいま会員募集中！

白梅分館を使用しているサークルの会員募集です。

《コール白梅》 (合唱)

童謡・唱歌など色々なジャンルの曲に挑戦しています。様々な催しに参加し、目標に向かって出来上がっていく楽しさがあります。

活動日 毎月3回 火曜日

午前9時45分～正午

会費 月額 2,000円

連絡先 菅原 ☎552-5883